

民主化闘争情報

No. 952

2017年3月9日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

JR東労組は、確立したスト権を背景に、具体的な要求提出前から会社と内々に「定額ベア」を約束したこと、スト権行使を交渉前から回避した模様であることは既報のとおりである（民主化闘争情報 No. 947、949）。この理解しがたい会社とJR東労組の行動に対し、JR連合の加盟単組であるジェイアール・イーストユニオンは、会社との第1回交渉時に経緯の説明を求めた。春闘交渉開始前に一部労組にだけ「約束」を行うという信義に悖る対応に強く抗議し遺憾の意を伝えたが、会社は「労使協約に基づき、申し入れのあった中身の交渉を行い、その時機における会社側の考え方を述べたものであり、掲出されている内容（JR東労組の業務部速報）については間違いない」「他の労組への配慮などに欠ける部分があった」などと回答した。もしや、会社はJR東労組のスト権確立に早々に屈服したのか・・・。疑念をぬぐえない。

JR東労組は、連合が設定する最大のヤマ場＝3月15日を「回答時期」に指定！

連合の加盟産別としての社会的責任を果たせるか？

JR東日本労使がJR産業界で‘一番風呂’！！？？

JR東労組は、申15号により「組合員の基本給一律6,000円引き上げなどの賃金引き上げと、回答時期を3月15日とすること」等を要求しているようだ。一方で、スト権行使を回避したことの‘裏付け’とも受け取れることとして、法律や労働協約のルール上、ストライキ等の争議行為を行う10日前までに行わねばならない「争議行為の概要予告」をしていない。指定した3月15日に、納得のいく「定額ベア」の回答を引き出すことまでも、すでに‘確約’しているのだろうか？

JR東日本関係者によれば、JR東労組はこの間、「『格差ベア反対の闘い～スト権確立』のゴールを『格差ベアに終止符を打つこと』と『回答指定日を守らせること』」としてきたようだ。しかしながら、格差ベアに終止符を打ったわけでもなく、回答引き出しの日程は労使協議の経過如何でズレ込むこともあり得る。直近では、2015春闘では妥結が4月1日に、2016春闘では3月31日までズレ込み、JR総連が連合や交運労協に‘弁明’して回ったとも聞いている。

これらを意識しての回答期日指定なのであれば、スト権の行使を背景により強く迫るのかと思いきや、3月15日の10日前になっても「争議行為の概要予告」を行っていないということは、相当の自信と‘確約’があると思えない。

閉ざされた臨時大会における代議員投票はともかく、全組合員に強い「スト権確立に向けた一票投票」は何のためだったのか？

「格差ベアを巡る『労使間の紛争状態』はまだ継続している」はずなのに、スト権行使に必要な手続きすら行っていない。一票投票では、スト権確立に対して82.3%の賛成を得たと誇らしげに宣伝しているが、組合役員に囲まれ監視される中での投票を強いられたとの声も聞く。「いつでもたたかえる体制」の構築？何かの訓練でもやっているのか・・・。多くの組合員は、狐につままれたような感覚に陥っているのではないかと心配する。JR東日本会社も振り回されているのでは。心配だらけだ。